

授業科目名	精神看護学実習	担当教員	大國 慧		
開講年次及び学期	3年次後期	必修・選択の別	必修		
開講形態	実習	時間数	90	単位数	2

### 授業の目的（概要）

#### 授業概要：

精神障がいをもつ人を身体的・心理的・社会的側面から総合的に理解し、患者－看護師関係の成立・発展を通して、対象者および家族に必要な看護を判断し、自律性を尊重した看護を実践できる基礎的能力を養う。

### 学修成果（到達目標）

- 1.精神障がいをもつ対象に対して、個別的な看護を実践する。
- 2.患者－看護師関係の成立・発展の重要性とその方法について理解し、対象との治療的相互関係を築く。
- 3.看護援助の振り返りを通して、対象理解と自己理解を深める。
- 4.患者を取り巻く環境とその調整の必要性について理解する。

### キーワード

患者－看護師関係、自己理解、他者理解、治療的環境、薬物療法、修正型電気けいれん療法、退院支援、リハビリ、エンパワーメント、ストレングス、精神保健福祉法、行動制限、自立支援医療、権利擁護、他職種連携

### 授業の進め方

1. 附属病院精神科病棟において、精神障がいをもつ患者（原則1名）を受け持ち、看護過程に沿って実習を展開する。

### 成績評価の方法（合否基準）

出席を重視します。実習日数の5分の4以上の出席が必要です。  
出席状況実習評価は、出席状況、実習中の態度、援助の実際、カンファレンスへの参加状況、実習記録などを総合して行います。  
総合得点を100点満点に換算し、そのうち60点以上を合格とします。

### 教科書・参考書・視聴覚・その他の教材

教科書：武井麻子：系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学 [1]，医学書院  
系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学 [2]，医学書院

参考書：野村総一郎・樋口輝彦 監修 標準精神医学第6版，医学書院  
田中美恵子 他 精神看護学 学生－患者のストーリーで綴る実習展開，医歯薬出版

### オフィスアワー

大國慧(臨床看護学講座) 質問等は随時受け付けます。まずはメールにて連絡してください。  
E-mail: oguni05@med.shimane-u.ac.jp

### モデル・コア・カリキュラムとの関連

- A-1 プロフェッショナリズム
  - A-1-1) 看護職としての使命、役割と責務
  - A-1-2) 看護の基盤となる基本的人権の理解と擁護
  - A-1-3) 看護倫理
- A-2 看護学の知識と看護実践
  - A-2-1) 学修の在り方
  - A-2-2) 看護実践能力
- A-3 根拠に基づいた課題対応能力
  - A-3-1) 課題対応能力
- A-4 コミュニケーション能力
  - A-4-1) コミュニケーションと支援における相互の関係性
- A-5 保健・医療・福祉における協働
  - A-5-1) 保健・医療・福祉における協働

- A-6 ケアの質と安全の管理
  - A-6-1) ケアの質の保証
  - A-6-2) 安全性の管理
- A-7 社会から求められる看護の役割の拡大
  - A-7-2) 保健・医療・福祉等の多様な場における看護職の役割
- B 社会と看護学
  - B-1 人々の暮らしを支える地域や文化
  - B-2 社会システムと健康
    - B-2-1) 健康の概念
    - B-2-2) 環境と健康
    - B-2-3) 生活・ライフスタイルと健康との関連
    - B-2-4) 地域ケアシステム
    - B-2-5) 社会の動向と保健・医療・福祉制度
  - B-3 社会における看護職の役割と責任
    - B-3-1) 看護職の法的位置付け
    - B-3-2) 看護における倫理
- C 看護の対象理解に必要な基本的知識
  - C-1 看護学に基づいた基本的な考え方
  - C-2 生活者としての人間理解
  - C-3 生物学的に共通する身体的・精神的な側面の人間理解
  - C-4 疾病と回復過程の理解
  - C-5 健康障害や治療に伴う人間の身体的・精神的反応の理解
- D 看護実践の基本となる専門基礎知識
  - D-1 看護過程展開の基本
    - D-1-1) 看護の基礎となる対人関係の形成
    - D-1-2) 多面的なアセスメントと対象者の経験や望み（意向）に沿ったニーズ把握
    - D-1-3) 計画立案・実施
    - D-1-4) 実施した看護の評価
  - D-2 基本的な看護技術
    - D-2-1) 看護技術の本質
    - D-2-2) 看護実践に共通する看護基本技術
    - D-2-3) 日常生活の援助技術
    - D-2-4) 診断・治療に伴う援助技術
  - D-3 発達段階に特徴づけられる看護実践
    - D-3-3) 成人期にある人々に対する看護実践
    - D-3-4) 老年期にある人々に対する看護実践
  - D-4 健康の段階に応じた看護実践
    - D-4-3) 回復期にある人々に対する看護実践
    - D-4-4) 慢性期にある人々に対する看護実践
  - D-5 心のケアが必要な人々への看護実践
  - D-6 組織における看護の役割
    - D-6-1) 組織における看護活動とケアの質改善
    - D-6-2) リスクマネジメント
    - D-6-3) 保健・医療・福祉チームにおける連携と協働
- F 臨地実習
  - F-1 臨地実習における学修
    - F-1-1) 臨地実習における学修
    - F-1-2) 臨地実習における学修の在り方（特徴）
  - F-2 ケアへの参画
    - F-2-1) 看護過程に基づくケアの実践
    - F-2-2) 安全なケア環境の整備
    - F-2-3) チームの一員としてのケア参画

### 準備学修に必要な学修の時間

各講義の中で指示します。

実習予定表

	午前					午後				
	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00		
	8:30	9:30	10:30		13:30	15:30		16:30		
第1週	月	学内オリエンテーション		課題学習	昼休み	病棟オリエンテーション・患者紹介 (関係の開始) [情報収集]		記録の整理		
	火	看護実践 [情報を整理し,看護の方向性を考える]			昼休み	看護実践 [情報を整理し,看護の方向性を考える] プロセスレコード記載		カンファレンス	記録の整理	
	水	看護実践 [プロセスレコード【1事例目提出】]			昼休み	看護実践 [情報の整理・分析]		カンファレンス	記録の整理	
	木	看護実践 [プロセスレコード【1事例目提出】]			昼休み	看護実践 [アセスメント,問題の明確化, 目標の設定,看護計画の立案]		カンファレンス	記録の整理	
	金	看護実践 [アセスメント,問題の明確化]			昼休み	資料準備	全体像と看護の方向性に関するカンファレンス			
第2週	月	看護実践 [看護計画の立案]			昼休み	看護実践(教授回診見学) [看護計画の実施と追加・修正]		カンファレンス	記録の整理	
	火	看護実践 [看護計画の実施と追加・修正]			昼休み	看護実践 [看護計画の実施と追加・修正]		カンファレンス	記録の整理	
	水	看護実践 [看護計画の実施と評価]			昼休み	看護実践 [看護計画の実施と追加・修正]		カンファレンス	記録の整理	
	木	看護実践 [看護計画の実施と評価]			昼休み	看護実践 (関係の終結に向けての関わり)		カンファレンス	記録の整理	
	金	看護実践 [看護計画の実施・評価][実習のまとめ]			昼休み	看護実践(関係の終結)		最終カンファレンス [実習のまとめ]	記録の整理	

- ※ 上記予定は、状況によって変更する場合があります。
- ※ 祝祭日がある場合は、その都度変更点を伝えます。
- ※  は、学内での実施となります。
- ※ フェーズが上がった場合には、実習内容を変更して実施する可能性があります。

## 授業計画

### 実習内容

#### 【実習形態】

1. 附属病院精神科病棟において、精神障がいをもつ患者（原則1名）を受け持ち、看護過程に沿って実習を展開する。

#### 【実習の流れ】

##### < 1週目 >

- 1) 事前学習で特徴的疾患、治療、関連する法律、社会資源、セルフケア理論等について復習しておく。
- 2) 初日オリエンテーションで、精神科における看護や物理的環境の特徴について学ぶ。
- 3) 患者－看護師の治療的相互関係を築く。
- 4) 患者の看護上の問題やリカバリーに向けたストレングスに結びつく情報を整理し、既習の知識を活用してアセスメントしたうえで看護の方向性を示す。
- 5) 患者のリカバリーに向けて、目標や具体策について本人と共有する。
- 6) 看護援助場面を再構成し、対象および自己の内面についての気づきを深める。

##### < 2週目 >

- 1) 看護計画に沿って、患者のセルフケアを援助する。
- 2) 実施した援助とその結果を評価・考察し、計画を追加・修正する。
- 3) 患者－看護師関係の終結を適切に行う。
- 4) 実習全体の学びを整理する。

### 備考

- ・フェーズが上がった場合には、実習内容を変更して実施する可能性があります。